

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年4月11日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676800214
法人名	社会福祉法人 隆愛会
事業所名	賀寿園 グループホーム愛
所在地	鹿児島県志布志市志布志町安楽2814 (電話) 099-473-8186
自己評価作成日	令和4年2月4日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「和顔愛語」の信条、法人理念、事業所理念の元に、普段の業務から「優しい言葉」「温かな笑顔」を意識したケアが実践できるように励んでいます。「認知症とはなにか?」「日々のケアが1人1人の認知症の方の求めているものにそえているだろうか?」と振り返りながら日々取り組んでおります。ご利用者様と日々関わる中、「小さな変化」に気づき、「できること」「できないこと」「できなくなっていること」を職員間で情報を共有し、ご利用者様が「求めていること」を1つでも実現できるように心がけています。ご家族様との関係については、コロナ禍で行事等が開催できない中、直接面会ができる場合は面会を行っていただき、直接面会が難しい場合は「窓越し面会」で対応させていただいています。定期的に電話で状況、状態の報告をさせていただきご家族様のご要望等を聞かせていただいています。毎月、職員からの手紙を書き、広報誌等で生活状況を知っていただいています。私達は、ご利用者様の「その人がその人らしく尊厳のある生活」の実現を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは志布志インターチェンジに近く、周囲に商店も多く建ち並ぶとても利便性の良い環境の中に、母体である特別養護老人ホームやデイサービス、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所等に隣接し運営されている。コロナ禍以前は法人全体での消防訓練や合同行事等、地域住民の参加も得ながら交流していた。身体拘束廃止に関する指針の確認は基より、定期的に「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」を開催し、拘束のないケアが実践できるよう、理念に照らし合わせながら自由な暮らしの大切さについて職員間での話し合いを続けている。毎日を自由に安心して過ごしてもらえよう、日頃の様子や会話の中から思いの把握に努めると共に、利用者が外出しそうな様子を察知した時は、職員間での情報交換やユニット間での情報共有に加え、各法人事業所等、法人全体による見守りを行う等、協力しながら安全な暮らしの支援につなげている。「和顔愛語」を信条に「言葉は命なり。認知症の方や意思疎通の困難な方でも感情は脈々と生きている。接する際は優しい言葉を…」を理念の中核に据え、毎月のユニット会議で理念の共有と実践につなげられているかを振り返る機会を設けている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人の運営理念を念頭に置き、「和顔愛語」の信条のもと「優しい言葉」「温かな笑顔」を職員間で共有し、「その人の思い」に寄り添うサービスの提供に努めている。	フロアと玄関、職員トイレ内に理念を掲示して意識付を図っている。また、毎月のユニット会議では理念を共有し実践につなげているかを振り返る機会を設けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域への参加は、新型コロナウイルスの影響もあり、市や法人の行事が行えない状況である。利用者様も高齢で身体機能の低下している方が多くなってきている。	コロナ感染拡大のため、徘徊模擬訓練や職場体験の受け入れができない状態が続いていたが、コロナが落ち着いた昨年9月、小学校に出向いて福祉体験会を開催することができ交流することができた。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	新型コロナの影響で、地域の方々との交流等が行えていないが、感染が沈静化している時は法人で地域の小学校に出向き「福祉体験」を行なった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行なっている。コロナ感染が流行している時は各委員の方々に電話で連絡を行い、当施設の状況の説明や委員の方々の意見を聞き、実践にいかすように努めている。	家族や住民代表、行政職員等が参加する会議を令和3年度は2回開催することができたが、コロナ拡大に伴い、多くは書面に代えての対応とした。委員には事前に電話等で意見を尋ね、議事録による報告とした。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やコロナへの対応、その他の小さな疑問などについて市の担当者に相談を行い、助言をもらっている。	行政には介護保険制度のことで判断に迷った時等、解釈や助言をもらいに電話や出向く等している。また、運営推進会議議事録提出時に担当者顔と顔を合わせる際、ホームの状況や暮らしぶりについて伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束等適正化のための対策を検討する委員会」を定期的開催。事例をあげ「身体拘束につながるようなことは何か」職員同士で共通理解を持てるよう取り組み、身体拘束を行わないに努めている。	指針の確認は基より、拘束に関する研修も実施するほか「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」も定期的開催して拘束の弊害や拘束のないケアの重要性についてを確認している。安心して生活できるように利用者の様子観察に努め、職員間での情報共有を常に図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については日々行っているケアの中で虐待につながる可能性はないか、職員同士が意識して取り組んでいる。理念を意識したケアの取り組みを常々声をかけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナの影響で研修への参加が難しいところがある。現在、成年後見制度を使用されている利用者様がいる。管理者から職員への制度について、説明し、制度への理解に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様とご家族に対して契約書や重要説明書等の文書と口頭で十分に説明し、了解をいただいている。利用料金等が変更になった場合等は同意書をもらいご理解をいただく様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で家族会や意見交換会を行うのが、難しい状態である。毎月、担当者からの手紙とご一緒にご意見用紙を送付し、面会時にはご家族様と会話をし意見をいただける環境を作るように努めている。	コロナ感染拡大に伴いこれまでのような自由な面会ができないが、窓越し面会に来られた際には意見や要望はないか尋ねている。また、請求書と一緒に毎月アンケート付の手紙を送付しており、玄関に設置したアンケートボックスに無記名で意見や要望を出してもらっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット間で毎月会議を開催し、職員から日々の疑問やケアに対しての改善点などを設けている。会議以外に問題等がある場合は、その都度意見を聞き、適切な運営ができるように努めている。	管理者は日頃より何でも言える関係でありたいと考え、職員一人ひとりを気遣い、こまめに声を掛け話をするようにしている。また、勤務表は休みのほか、夜勤や早出、遅出の希望も尋ねた上で、なるべく均等になるよう作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	提言・自己申告表を作成し、職員の意見や要望等が伝わるように努めている。親睦会からもアンケート等があり代表者と話し合いを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナの影響で外部研修への参加が難しい状態である。日々の業務の中でケアに対しての助言やケア方法の指導を行うように努めている。WEB研修への環境も整いつつあるので今後は活用していきたいと思う。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修等に参加した職員はその際に、他事業所の職員の方と交流を設けている。研修に参加できていない職員はコロナ禍の現状では外部との交流は難しい状態である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決定した際に、ご本人やご家族の面談を通じて、本人の思いやご家庭での困りごと不安等が把握できるように努めている。安心して生活して頂ける様に思いや要望に応えられる様に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回のアセスメント作成前の段階でご家族に話を伺える時間を頂き、これまでの生活歴等も聞かせて頂いています。不安なことや要望等も聞かせて頂きケアプランに反映させて頂いています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談があり、入居申込があつた段階ですぐに入居に対応できない場合は本人、ご家族様にとって、どのような介護保険サービスが最善で、利用できないか検討するようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできることに、出来ないことは何か、出来るが出来なくなならない様に本人の思いを尊重しながら共に生活していく雰囲気を作るように努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等で来園の際に近況の報告をさせて頂いている。定期的な電話や手紙、広報誌等で状況報告をさせて頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で馴染みの人や場との関係継続は難しい部分があるが、ドライブ支援や面会等の機会を設ける様にしている。	コロナ禍のため、これまでのような友人知人、家族との交流は困難な状況であるが、感染対策や検温チェック表の徹底等、条件付きで外泊を認めたり、家族や兄弟との間での手紙や電話の取り次ぎ等を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や認知度、身体機能等をテーブルの位置や席を決めている。良好な関係が保てる様に職員が調整役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、ご家族に思い出になる様に写真を編集した物をお渡ししている。必要に応じて連絡をさせて頂くこともあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者様の思いを聞ける様な場面を作らせて頂き自己決定を尊重する様努めている。表現が難しい利用者様には表情等を観察し少しでも思いに近づけるようにし職員間で共有できるようにしている。	本人が意向や思いをうまく伝えられない場合は、日々の様子等から汲み取ると共に、これまでの生活歴や好き嫌い等を家族や居宅のケアマネジャー等から詳しく聞き取り把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に入居までの経緯や生活歴等の情報を把握しているが、情報が足りない時は本人様・ご家族様に聞き取らせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録表に排泄や食事量、水分量を記録している。いつもとちがうことなども特記に記載して職員間で共有するようにしている。健康状態も別紙にて記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録の中から、ケアの中から、スタッフとのミーティングの中から、ご家族との会話の中からいろんな意見を取り入れアセスメント、モニタリングを行い、本人様に合った活きた介護計画になるように作成するように努めています。	本人や家族の思いや意向を基に毎月のカンファレンスやモニタリング評価、受診時に知り得た主治医からの助言を参考にしながらケアプランを作成している。また、病状が変化した時や認知症状の進行等が見られた場合には都度、ケアプランを見直し修正している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子やケアでの気づきを仮説に基づき実践し、そして結果をまた職員間でユニット会議、書面にて情報を共有し定期的な介護計画の見直しに活かすよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の認知症状の進行や身体機能の低下に伴い、今までのケアが難しい時は、一定期間を経過観察し看護師・管理者に相談後ご家族様に報告、相談し、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、以前は行っていた近隣の方々の協力を頂き年二回の防災訓練も出来ず。現在は、消防署を招いての法人消防訓練（机上訓練）を行い利用者様、ご家族様に安心して暮らして頂ける様努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の希望に沿って入居前からのかかりつけ医を利用したり、かかりつけ医の変更の希望がある時は柔軟に対応させて頂いている。	緊急時の対応が取りやすいことに加え、安心のためほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としており、職員が受診を支援している。受診の内容は個別記録や医療連携記録により情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員を配置している。勤務歴も長く、利用者様との関係性も良好である。健康管理について連携し、受診支援や健康状態の報告、観察に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際、利用者様の入院までの経緯やADL、既往歴、認知症状を医療機関に情報提供している。定期的に病院のケースワーカーと連絡を取り合い本人様の状態や退院の時期などの情報を交換し、スムーズに退院できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期・看取りに関する指針を作成している。看取りについてのご家族の意志やご希望をふまえて、事業所でできることを説明し、ご理解を頂き同意を得たい。	「医療連携体制の指針」「看取り介護に関する指針」を準備し入居時に説明している。ホーム自体では終末期支援には対応していないが、重度化しても可能な限り支援していけるよう、利用者や家族、医師等との話し合いを繰り返し行い理解につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生においての緊急マニュアルを作成、職員が共有できるように事務所に掲載している。上記の際は速やかに、理事長、看護師、管理者、リーダーへ報告し、適切な対応ができるように連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人での防災訓練を消防署を消防署を招いて行っている。（机上訓練）コロナ禍で避難訓練等が行えない状況であるが、職員と意識の共有を行っている。年2回の消防設備点検を行っている。</p>	<p>以前は法人全体や事業所単位で災害訓練を行っていたが、コロナ禍以降は年2回、避難経路の確認等、図上による災害訓練に代えて実施している。備蓄はホームには飲料水のみ確保されており、食料品等については、隣接する特別養護老人ホームで一括管理されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を法人理念や事業所理念を常に意識して実践しています。職員間でお互いに注意しあえる様になっています。	入浴の際は同性介助の希望に応じたり、トイレ誘導の際は耳元でさり気なく声を掛ける等、羞恥心に配慮した支援を行っている。また、これらの対応については、ユニット会議で理念に立ち戻って考え、支援につなげられるよう繰り返し確認している	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや行事への参加や入浴等は無理強いせず、本人様の自己決定を尊重できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活ペースを把握し、ご自分の生活ペースで過ごして頂ける様努めている。昼夜逆転等、ズレが生じ、修正が必要な場合においては認知症状に合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣服の選択や整髪・洗面等はご自分でできる方は行ってもらっています。介助が必要な方も残存機能を活かし、行えない部分の支援をさせて頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭きや茶碗洗い等片付けを一緒にさせて頂いています。食事はご自分のペースで召し上がって頂ける様に時間も考慮させて頂いています。	食器洗いやお盆拭き、包丁を使って調理の下ごしらえに参加する利用者もいる。積極的に調理を手伝いたい利用者は、職員と共に調理の一連の工程に参加し取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、隣接する特養の管理栄養士に助言を貰いながら献立を作成している。食事摂取量を記録に残し、摂取が減った時等職員食事形態を話し合い出来るだけ美味しく摂取して頂ける様に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所へ誘導口腔ケアを本人様に合わせてして頂いています。（介助が必要な方はさせて頂いています。）夕食後は定期的に義歯を消毒し、清潔を保てる様支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレはリハビリになるとの考えで出来るだけトイレにて排泄して頂ける様に実践させて頂いています。記録にて排泄パターンの把握をしており各個人に合わせ誘導（声かけ）させて頂いています。	「個別記録」内に排泄チェック項目を設け、個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導や緩下剤の使用検討につなげている。排泄の意思がなくても便座に座ることで排泄につながる事が多いため、定期的にトイレ誘導を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便の状況を個別記録等で確認をしている。ラジオ体操などを行い体を動かし便秘の解消に努めている。排便困難な方に関しては、看護師に相談し、医師と連携し医療的ケアなどの検討をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は、行事や勤務の関係で午前中に入浴を行っていることが多い。できる限り本人様の意向に沿って入浴支援をさせて頂いている。シャワー欲の方が多いが足浴とシャワー、手桶でのお湯かけをさせて頂いている。	週2～3回午前中の入浴を基本とし、楽しく入浴できるよう入浴剤を使用することもある。入浴したくないと言われた場合は、声掛けのタイミングを見計らう等して無理強いをさせないよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯は自室にて安眠できるように、室温・湿度の調整や調光等の環境に気をつけている。居室で休息される方も安心して休息ができる様支援させて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携記録と一緒に薬情を綴っています。処方箋の薬の増減を見て、そこからの本人様の調子を見させて頂いています。内服薬の変更、新規内服薬は職員間で共有して、何かあれば看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様が何が好きかを知りたいのでチームでアンテナを貼り、エンパワーメントな声かけをする様努めさせて頂いています。些細なことでも記録に残し共有する様努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の感染予防の為、実践できていないが園内(外)の散歩、季節の花の開花時期に合わせてドライブ支援等させて頂いています。	以前は地域行事であるお釈迦祭りに出かけたり、法人行事への参加、お墓参りや外食等に出かけていたが、コロナ禍の現在は人と接触しないようドライブが中心になっている。少しでも気分転換が図れるようにとお花見や神社、海を眺めにドライブに出かけたり外気浴を兼ね敷地内の散歩を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理はご家族にお願いしています。利用者様からの要望があればご家族様にお願いして持参して頂いています。KPが遠方の方が少しずつ増えてきているので、今後検討しないといけないと思います。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者様の希望があれば事務所の電話を利用して頂いている。年賀状や残暑見舞い等を利用者様に書いてもらって郵送しています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間のリビングにはソファやテレビなどを配置している。温度や湿度は空調やカーテンなどで調整し過ごしやすい様努めています。季節の壁面等の飾り等、利用者様と一緒に作らせて頂いています。</p>	<p>フロアの天井は高く天窓もあるため十分な採光の確保と室温や換気を調整しやすい。また、テーブルにパーテーションを置く等、コロナ感染症対策にも配慮している。各トイレスペースは十分で車椅子操作や介助しやすく、また、新たに脱衣場にエアコンを設置したことで浴室との温度差にも配慮している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自席の場所等、仲の良い人の近くに座って頂ける様、工夫をさせて頂いています。散歩に行かれたりした際廊下に造り付けの椅子がありプライバシーにも配慮させて頂いています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居に際し、家から馴染みの家具やご家族の写真等を持ってきて頂き、居室に配置し居心地の良い空間で過ごして頂ける様に、また環境が変わることへの不安解消に努めています。</p>	<p>エアコンと電動ベッド、タンス、クローゼットが備え付けられるほか、自宅からテレビやこたつ、観葉植物等を持ち込み、居心地よく過ごせるよう動線に合わせて家具を配置している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>	<p>出来るだけ介護者として利用者様ができることわかることを見守る様にと努めています。認知機能、身体機能の低下でできなくなってきたことに関しても職員間で話し合い、出来るだけ自立した生活を送って頂ける様に努めています。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない